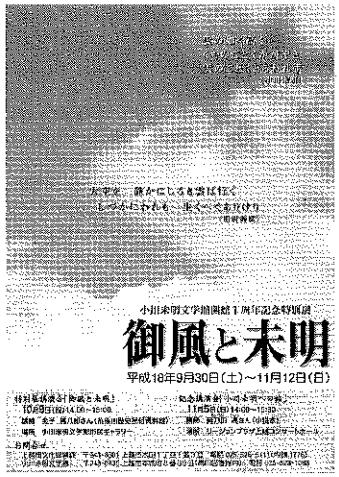
◆小川未明文学館開館一周年記念 特別展「御風と未明」

平成17年秋、上越市高田図書館内に開館した小川未明文学館にて、開館一周年記念特別展「御風と未明」が平成18年9月30日から11月12日まで開催されました。

期間中には、阿刀田高氏による記念講演会「小川未明への旅」、金子善八郎氏による特別展講演会「御風と未明」が開催されました。



御風は未明より一歳年下ですが、高田中学（現高田高校）、早稲田大学と同じ進路を辿っています。卒業後、「早稲田文学」編集の中心人物として、中央文壇における発言力を日に日に増す御風に対し、未明は作家としての道を歩み始めたばかりで、文壇でなかなか認められず、その生活は困難を極めていました。

そんな未明に暖かい手を差し伸べたのが、「早稲田文学」明治45年1月号に発表された御風の「小川未明論」でした。続く2月号では、徳田秋声、谷崎潤一郎とともに、最近一年間の文壇における「推讃の辞」が未明へも贈られています。

昭和15年11月8日、夫人を伴い、未明は糸魚川の御風を訪ねています。「野を歩む者」第五十五号の身邊雑記に、

小川君五十九歳、私は五十八歳。二人ともいつしか老いたが、逢つて話してゐると、二人とも少しも昔の若さを失つてゐなかつた。

「また逢はう。」

「また逢はう。」

とお互に同じ言葉を繰り返しつゝ、別れたが、いつ又逢へることやら…

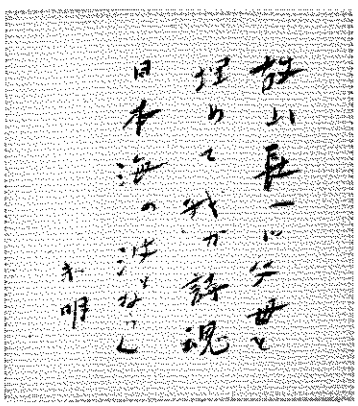
その日は終日私は夢見心地でくらした。

と、二十三年ぶりの再会を、涙ながらに喜んだと書かれています。

この前日、未明は春日山神社の創設に奔走した父母の霊碑を建立し、除幕式を行っています。その碑の裏面には、

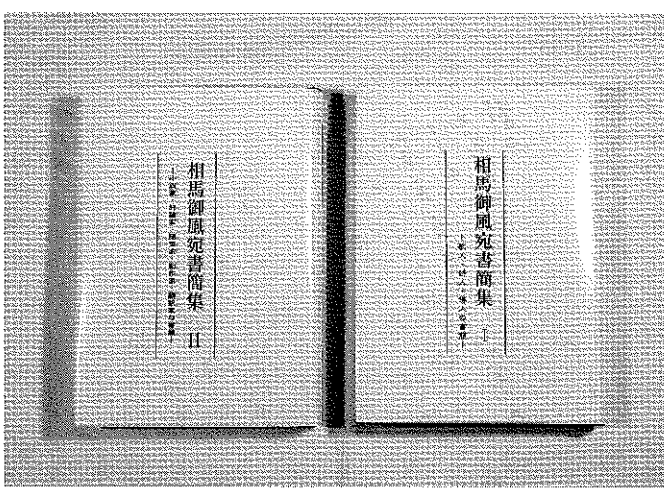
故山長へに父母を埋めて我が詩魂
日本海の波とならん

とあります。これと同じ言葉を書いた色紙が資料館に保存されています。未明が御風宅を訪れた際に、御風に渡したものなのでしょう。御風は「いかにも未明らしい言葉」だと評しています。



◆相馬御風宛書簡集Ⅱ発売中

明治・大正・昭和を代表する歌人、詩人、俳人の書簡を収録した第Ⅰ巻に続き、この第Ⅱ巻では同時代の小説家、評論家、随筆家、劇作家、翻訳家八十名の書簡五百七十七通を収録しています。早稲田大学関係者を中心に、東京時代からの知人友人はもちろん、糸魚川に戻ってからも多くの著名人と交流のあった御風の人脈を知ることができます。定価は第Ⅰ巻、第Ⅱ巻ともに四千円です。



※第Ⅱ巻の主な収録人物（一部）

秋田雨雀、泉鏡花、市嶋春城、生方敏朗、小川未明、小田嶽夫、鈴木三重吉、田山花袋、坪内逍遙、中河与一、中村星湖、長谷川天渓、細田源吉、正宗白鳥、松岡譲、吉川英治、吉田絃二郎など

★寄贈者・寄託者の紹介

平成18年度に次の方々から寄贈・寄託を受けました。厚く御礼申し上げます。

◎寄　贈

飯島 三雄 様（新潟市）
・書簡…岡本英一宛御風書簡1通

市川 信夫 様（上越市）
・書籍…御風著『小説 峠』他1冊

鳥井 光子 様（新潟市）
・書簡…鳥井儀資宛御風書簡184通他

中倉 一郎 様（糸魚川市中央）
・書籍…『相馬御風著作集』全10巻

福田 誠 様（京都府京都市）
・書簡…福田静処宛御風書簡3通

◎寄　託

金山神社氏子総代 橋立 昭 様（糸魚川市槇）
・作品…御風書「神杉に」
「掬めば手に」
額装2点

★寄贈・寄託のお願い

資料館では御風関係資料の充実を図るため、収集活動を行っています。寄贈・寄託いただける御風の資料がございましたら、ご連絡ください。

※館報タイトル「古今一如」は、御風宅土蔵の字を集字したものです。